

・このたびは、弊社商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。本書には、施工に関するポイントや注意事項をまとめております。商品の特性をご理解いただき、安全でより美しい仕上がりに施工していただくため、施工前に必ず本書をご一読くださいますよう、お願いします。

安全上のご注意



注意

※この表示の欄は「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害、損害の程度」です。

- ・接着剤を使用する際は、換気を十分に行ってください。
- ・接着剤を使用する前に必ず接着剤容器に記載されている、安全上の注意、使用方法、使用上の注意を読み正しくご使用ください。守らない場合、健康を害するおそれがあります。

施工上のご注意

- ①この商品は、一般内装（住宅）用の床材です。
屋外及び重歩行（土足）用、業務用として使用される居室にはご使用になれません。また屋内でも浴室など、湯気にさらされたり、たえず水がかかったりするところではご使用になれません。
- ②10mを超えるような連続した長い床貼りになる場合は、被せ型見切りを使用するなどして、床面を区切り、フロアの長さ継ぎが連続しないようにしてください。
- ③床暖房に施工する際は、床暖房放熱体メーカーの施工説明書をよく読み、注意事項を守って、正しく施工してください。なお、適合機種は、弊社又は床暖房放熱体メーカー様にご確認ください。
- ④直射日光に当たったり、雨に濡れるところ、湿気の多いところでは保管しないでください。
長時間、水に濡れたまま放置しますと、カビの発生や腐れ、変色、ひび割れ、はがれなどの原因となります。
また、立てかけ状態での保管を避け、開梱後は速やかに施工してください。
- ⑤コンクリートスラブ厚さは150mm以上が基本となりますので図面などでご確認ください。
- ⑥この商品は接着工法のため、必ず指定の接着剤をご使用ください。
指定以外の接着剤を使用すると、フロア施工後、床鳴り（踏み鳴りなど）や接着不良などのトラブルの原因となります。
- ⑦ゴムハンマーを使用する場合は、必ずフロアを損傷させにくい生ゴムハンマー（色：橙色、材質：生ゴム、重量：約450g、ゴム硬度：約60度）を使用し、軽く叩いて位置合わせを行ってください。強く叩くとサネ部分やフロア表面が割れることがありますので強く叩かないでください。
また、劣化して固くなった生ゴムハンマーは使用しないでください。
- ⑧施工前に必ず仮並べを行い、色の濃淡、杓柄など、部分的に片寄らないように、全体の色柄のバランスをご確認ください。
- ⑨施工工具は、各工具の取扱説明書に従って、適切に保護具（保護めがね、防じんマスクなど）を使用してください。特に、フロアカット時は木粉により、むせる場合があります。
- ⑩木質フロアは湿度の変化により伸縮する性質があります。特にフロア長辺側の巾木や被せ見切りの下などには、必ずスキ間を設けて、伸びを吸収できるようにしてください。
- ⑪ペット用防滑塗装品にはワックスは塗布できません。ペット用防滑塗装品以外はワックスは塗布できますが、ワックスを塗布されますと、フロアの表面がワックスの被膜となるため、傷のつきにくさ、抗菌・抗ウイルス性（抗ウイルス性能を付与したフロアのみ）等の塗膜性能が発揮されなくなります。

1 施工前の準備

1 梱包内容をご確認ください。

用途	商品名	寸法	入数	同梱物
床暖房兼用	ネダレスHLBF L-45 <マット塗装品>	13.0×145×909mm	24枚	そえ木：カットしてお使いください。 施工説明書：2梱包に1部の割合で同梱しております。
	ライブナチュラル ネダレス145 L-45 <ピュアハード塗装品>	13.9×145×909mm		
	ライブナチュラル ネダレス145 L-40 <マット塗装品>	13.5×145×909mm		
	ライブナチュラル ネダレス145 L-45 <マット塗装品>	13.0×145×909mm		
	ライブナチュラル ネダレス145 L-40 for Dog <ペット用防滑塗装>	13.5×145×909mm		

2 接着剤

・必ず下記の指定接着剤をご使用ください。

メーカー名	商品番号		内容量	使用量の目安	可使用時間	作業温度範囲
朝日ウッドテック(株)	夏用	グルー WG-910S/915S	10/15kg	450~550 (g/m ²)	40分	夏用：15~35℃ 冬用：5~25℃
	冬用	グルー WG-910W/915W				

※その他市販推奨接着剤：コニシ(株) KU928RS、KU928RWを使用ください。

なお、ご使用にあたっては、接着剤に記載の使用上の注意を良く読んで正しくご使用ください。

2 施工下地の確認

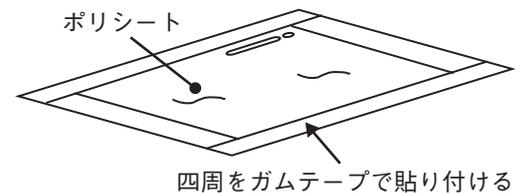
1 スラブ厚さと種類

・コンクリートスラブ厚さは150mm以上が基本となりますので、図面等でご確認ください。

2 コンクリートスラブの乾燥状態を確認してください

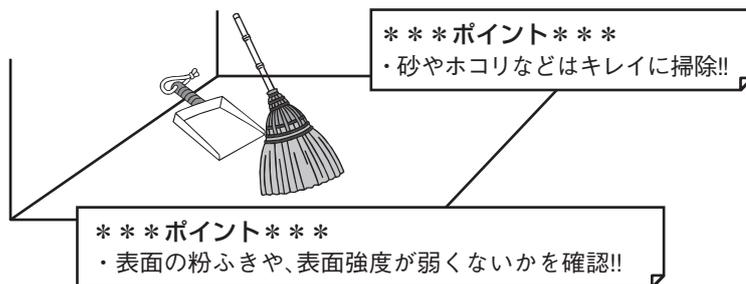
・打設後、3週間以上経過しており、最も乾燥しにくい部分に、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ（ガムテープ）止めで被覆密閉し、24時間以上放置後、シート下の材面が黒く変色していないこと。
（日本複合・防音床材工業会「防音直張り床材の施工に関する遵守事項」より）

表面が乾燥していても、内部が乾燥していない状態で施工すると、施工後の床鳴り、突き上げ、波打ち、接着不良の原因となります。



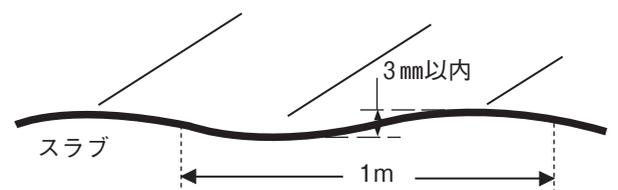
四周をガムテープで貼り付ける

3 スラブの表面状態



・下地の表面に粉ふきが多いものや、表面強度が弱い場合は、接着不良やはがれが発生する場合がありますので、事前に確認してください。

4 スラブの不陸精度



・不陸は1mにつき3mm以下としてください。
床暖房パネル等の段差は1mm以下にしてください。
・下地のレベルが確保できていないと、施工時の接着不良、不陸や段差の表面への映り、歩行時の違和感を生じることがあります。
・廊下とリビングの境界部の段差には特に注意してください。

5 床暖房を設置する場合

・床暖房放熱体メーカーの施工説明書をよく読み、注意事項を守って、正しく施工されているか確認してください。
・床暖房放熱体の、「通湯（漏洩）・通電テスト」・「試運転」など、機器の工事および検査が完了してから施工してください。
・ガス温水式床暖房をお使いの場合は、各ガス会社様またはシステムメーカー様へ対応可能なりモコンについてお問い合わせください。
・床暖房パネルの固定釘部分などの凹部（深さ2mm以上）は、施工用接着剤で埋めて凹部をなくすようにしてください。

3 施工の手順

手順1 美しく、バランスよく並べる。

よくお読みになり、美しく仕上げてください!!

1 仮並べ



・施工する前に必ず仮並べを行い、色の濃淡・杳柄などが部分的に片寄らないように、全体の色柄のバランスを確認してください。1枚1枚色柄が異なります。

2 割り付け



・短辺の接続箇所が隣り合わないようしてください。
短辺の接続箇所が隣り合わせになっていると、施工後にフロアのスキ、段違い、床鳴り（踏み鳴り）などの不具合が発生することがあります。

手順2 壁際の巾木下部へそえ木を使用するかの決定

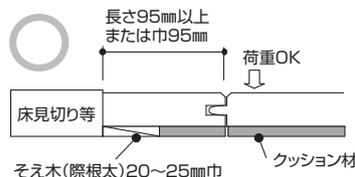
- ・壁際の巾木下の部分については、ゼネコン様、施工店様で協議の上、使用をお決めください。
- ・そえ木を使用した場合 →家具が傾くことがあります。地震など万一の場合に備えて家具の転倒防止器具などをご使用ください。
- ・そえ木を使用しない場合 →壁際を歩いたり家具を置いた時に巾木の下にスキ間が生じます。



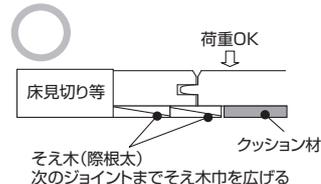
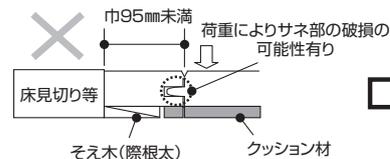
・そえ木とサネ嵌合部の位置関係によっては、サネが折れる可能性がありますので、必要に応じて下記の要領に従って、そえ木を施工してください。

〔被せ型見切りや巾木下などスキ間を設ける部分のそえ木とフロアは接着しないでください。〕
〔ただし、框や敷居などフロアが突き付けとなる部位はそえ木とフロアを接着してください。〕

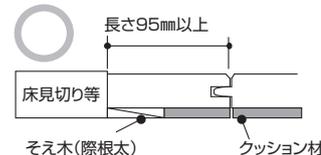
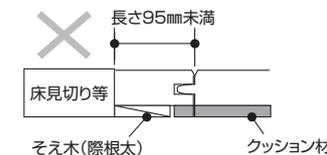
○長さ95mm以上もしくは巾が95mmの時
↓
そえ木を1枚使用する。



○巾が95mm未満の時
↓
次のジョイントまでそえ木を広げる。



○長さが95mm未満の時
↓
納めず、長さをずらして施工してください。



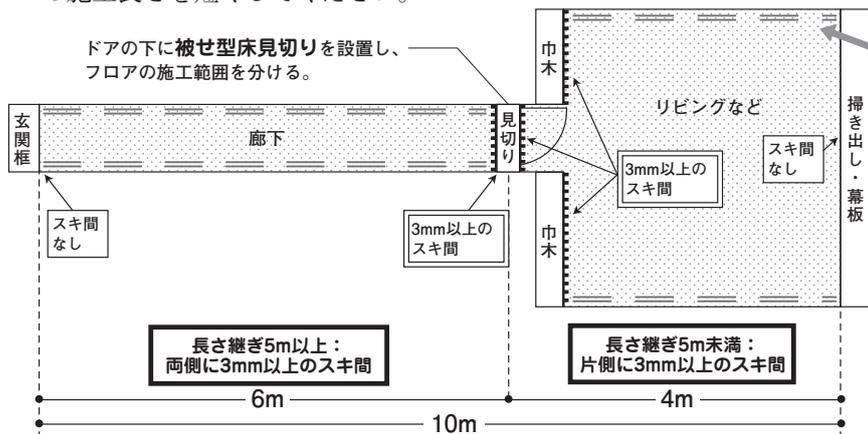
手順3 部屋の周囲にスキ間を設ける

長さ方向のスキ間の設け方

- 長さ継ぎが5m未満の場合…納まりの片側に3mm以上のスキ間を設けてください。
- 長さ継ぎが5m以上の場合…納まりの両側に3mm以上のスキ間を設けてください。
- 上記いずれも困難な場合…長さ方向のフロアジョイントに0.3mmのスキ間を設けてください。

周囲にスキ間を設ける施工の例（廊下とリビング）

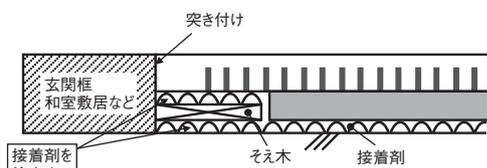
廊下とリビングは、以下の例のようにドアの下に被せ型床見切り（別売品）を使ってフロア施工範囲を分け、フロアの施工長さを短くしてください。



フロア施工範囲

巾方向の壁際の巾木下は、そえ木とフロア、そえ木と下地ともに接着固定してください。

玄関框や和室敷居など、フロアが突き付けとなる部位は、そえ木とフロアを接着してください。

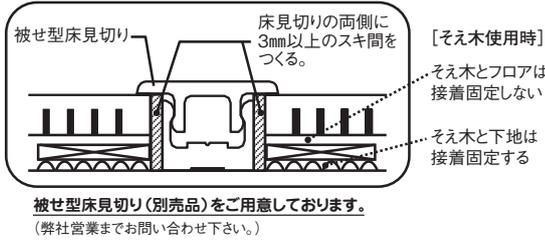


・部屋の周囲には、以下のように可能な限りスキ間を設けて施工してください。

(1) 見切り材を使用する場合

見切り材の両側に3mm以上のスキ間をつくります。

*見切り材を使用する場合：見切り材の両側に3mm以上のスキ間をつくります。

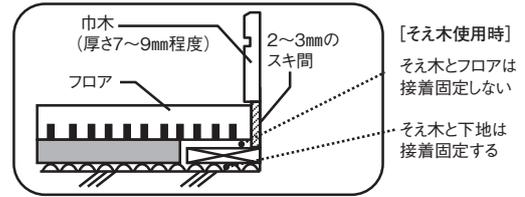


(2) 巾木を使用する場合(巾木は後付けにしてください)

長さ方向の巾木下に2~3mmのスキ間をつくります。

*ソフト巾木はスキ間をカバーできないので、ご使用にならないでください。

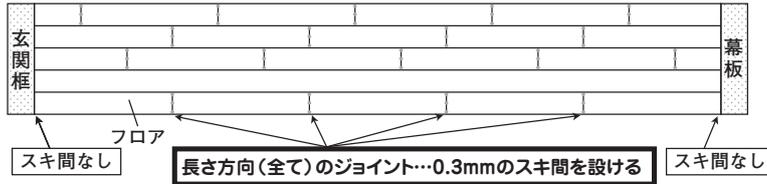
*巾木を使用する場合：長さ方向の巾木下に2~3mmのスキ間をつくります。



・巾木は後付けにしてください。

・フロアの伸縮を吸収するために、部屋の周囲はくさび(2~3mm程度の合板(そえ木など)で、2~3mmスキ間を空けて施工してください。くさびは施工翌日から3日後までに抜き取ってください。

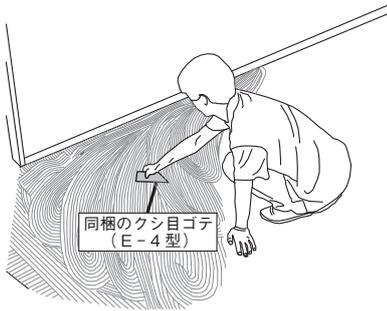
周囲にスキ間が設けられない施工の例



*フロアの長さ方向のジョイントにスペーサーなどで、約0.3mmのスキ間を設けて施工します。

手順4 接着剤を塗布する

- ・使用する場所の温度が5℃以下では、硬化が進みませんので、冬季に施工される場合にはあらかじめ、施工下地を暖める等の処置をおすすめします。
- ・接着剤が硬化するまでは、注意してフロア上を歩いてください。未硬化の場合はフロアがずれたりし、スキ・剥がれの原因になります。



- ・床暖房パネルの固定釘部分などの凹部(深さ2mm以上)は、施工用接着剤で埋めて凹部をなくすようにしてしてください。
- ・接着剤は専用の「クシ目ゴテ」で塗り広げてください。木切れなどを用いますと、規定量塗布できないことがありますので、必ず専用のクシ目ゴテをご使用ください。
- ※所定通り接着剤を塗布しないと、スキや踏み鳴りの原因となります。
- ・接着剤に記載の使用方法を良く読んで正しくご使用ください。(衣類などに接着剤が付くと、とれなくなりますので、十分ご注意ください)
- ・床材の表面に接着剤が付いた時は、すぐに乾いた布で拭き取るか、アルコールを含ませた布ですぐに拭き取ってください。
- ※接着剤は湿気で固まりますので、水拭きはしないでください。

■床暖房までに必要な期間

- ・接着剤が硬化するのに必要な期間を、十分に取ってから床暖房の運転を開始してください。(5℃以下で6日以上、5~15℃で4日以上、15℃以上で2日以上)

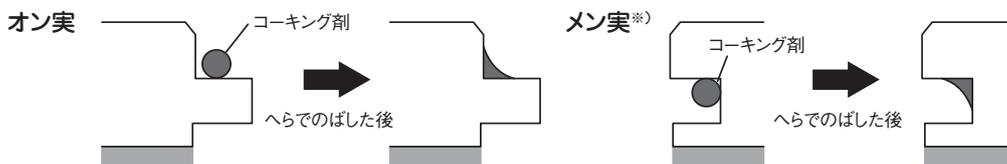
■目地コーキング処理をされる場合(対象:ペット用防滑塗装品)

フロアの継ぎ目やフロアと壁の間など、水分の染み込む恐れのある箇所には下記の方法で、目地コーキングをすることをお勧めします。

※コーキングを実施しても完全に膨れや変色を防止できるわけではございません。水分はできる限り早めに拭き取ってください。

- ・フロアを嵌合する直前に、フロア長手のオン実上部とメン実上顎に、フロア短手のオン実上部に変成シリコンコーキング剤[※]を1~2mmのビード状に塗布し、丸形のへらで隙間ができないように塗りのばしてください。

※)変成シリコンタイプをご使用下さい。シリコンタイプを使用するとフロア表面に付着した際に滑りやすくなります。
[推奨コーキング剤(市販品) ・コニシボンド 変性シリコンコーク(クリヤー色)]



※)メン実へのコーキング塗布はフロアの長手方向のみです。

- ❗【ご注意】
- ・コーキング剤がフロア表面に付着しないように、周囲をマスキングしてからコーキングしてください。(面取り部分までマスキングしてください)
 - ・フロア嵌合後、はみ出したコーキング剤はアルコール等で拭き取ってください。
 - ・コーキング剤の拭き残しがあると艶ムラの原因になります。
 - ・コーキング塗布後は5日間以上養生してください。

手順5 フロアの施工

- ・隣り合うフロアを足で踏んだり、ゴムハンマーで強く叩き込むなどして強く寄せすぎないようにしてください。（フロアのジョイント部は軽くふれる程度に寄せてください）
- ・フロアをずらしながら寄せると、接着剤を掻き取ってしまい、ハガレの原因となります。
また、ジョイント部に接着剤が溜まった状態で固まると、その部分の歩行感が悪化したり、防音性能を低下させることがあります。
- ・ゴムハンマーを使用する場合は、必ずフロアを損傷させにくい生ゴムハンマー（色：橙色、材質：生ゴム、重量：約450g、ゴム硬度：約60度）を使用し、軽く叩いて位置あわせを行ってください。
強く叩くとサネ部分やフロア表面が割れることがありますので、強く叩かないでください。
また、劣化して固くなった生ゴムハンマーは使用しないでください。
- ・仮釘などを使用する場合は、下地の温水パイプや配線などに注意してください。
また、接着剤硬化後に仮釘を必ず抜き取ってください。
- ・施工した直後、フロアの上に乗るとフロアが動き、スキ間のバランスが変わりますので、ご注意ください。

❗【ご注意】【施工にゴムハンマーを使用する際の注意事項】

～フロアのサネ部を損傷させず施工するためのポイント～

1. 生ゴムハンマーを使う

ゴムハンマーはフロアのサネ部を損傷させにくい当社指定のゴムハンマーをご使用ください。

（材質：生ゴム、重量：450g、ゴム硬度：60度程度）



○生ゴム



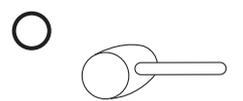
×白ゴム



×黒ゴム

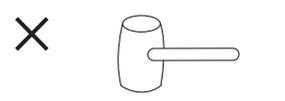
2. ハンマーは平使いし、強くたたかない

ゴムハンマーを過度の力でたたくと、サネを損傷することがありますので、過度の力でたたかないようにしてください。ゴムハンマーは側面をフロア表面に当てるようにご使用頂きますと、フロアを傷つけにくく寄せることができます。



○

フロア



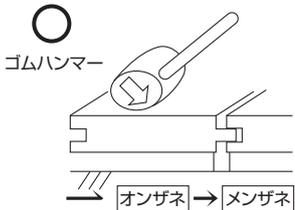
×

○

フロア

3. オンザネ差し施工

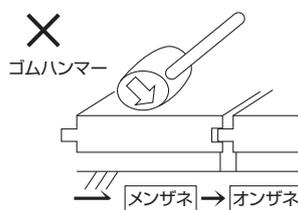
貼り始めは長辺部オンザネをカットして貼り始め、オンザネをメンザネに差し込むように貼り進めてください。ゴムハンマーを使って寄せてもオンザネ側は構造上損傷しにくくなっています。



○

ゴムハンマー

オンザネ → メンザネ



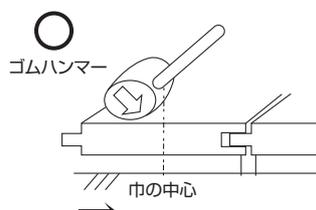
×

ゴムハンマー

メンザネ → オンザネ

4. メンザネの近くはたたかない

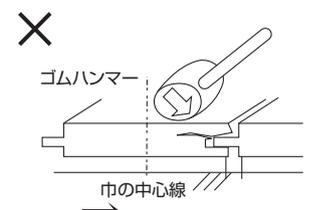
やむを得ずオンザネにメンザネを差し込みゴムハンマーでたたいて寄せる場合には、サネのジョイント部の近辺をたたくことは避け、巾中央部よりも手前をたたってください。



○

ゴムハンマー

巾の中心



×

ゴムハンマー

巾の中心線

手順6 施工後も美しく

1 施工後のご注意

- ・施工用接着剤が固まってから、フロアを寄せることは止めてください。
- ・くさびは施工翌日から3日後までに抜き取ってください。
- ・施工後は室内に湿気がこもらないように適度に換気を行ってください。
直貼りフロアは吸放湿により伸縮するため、施工条件や使用環境によっては、表面に波打ちが発生する可能性があります。

2 養生

- ・施工後は直射日光を避け、傷や汚れを防ぐために、養生シートを被せ、養生テープで固定してください。その上に合板、養生ボードを敷いて十分に養生してください。なお、養生シートとフロアの間、ゴミなどが無いようにフロア表面を、必ず掃除してください。
- ・養生シートは必ず、壁際、サッシ際まで被せてください。養生シートが被っていない場所は、直射日光にあたり、色が変わる場合があります。
- ・養生シートは平面（フラット）タイプをご使用ください。凹凸（エンボス）タイプの養生シートを使用すると、艶ムラや養生シートの跡が残ったりしますので使用しないでください。
- ・養生テープは当社別売の養生テープ（YT-T3）をご使用ください。梱包用テープなどを使用した場合は、粘着力が強く、フロアの化粧面を破損させたり、粘着剤が残ったりする可能性があります。

4 お引き渡しまでの間のご注意

1 換気についてのご注意

- ・当商品はF☆☆☆☆タイプとなっておりますが、お引渡しまでの間できるだけ、居室等の換気につとめてください。
- ・換気することにより、湿気が室内にこもらず、突き上げ等の対策となります。

2 水濡れ等に対するご注意

- 【お願い】 工事完了後は、雨水に濡らさないよう窓の閉め忘れなどにご注意ください。
 万一、水濡れした場合はすぐに拭き取り、十分に乾かしてください。
 濡れたまま放置しておくと、膨れや変色などになることがあります。

【工事業者様へ】 施工終了後、この施工説明書はクリーニング業者様へお渡しください。

■ワックスについて

- ・フリーワックス仕様になっておりますので、ワックスがけは必要ありません。
- ・ペット用防滑塗装品にはワックスがけはできません。ペット用防滑塗装品以外はワックスがけは可能ですが、ワックスを塗布されますと、表面の平滑性・艶の変化などが発生し、フロア表面の美観を損ねることがあります。また、フロアの表面がワックスの被膜となるため、傷の付きにくさ、抗菌・抗ウイルス性（抗ウイルス性能を付与したフロアのみ）等の塗膜性能が発揮されなくなります。

ワックスがけをされる場合は、下表に記載のものをご使用ください。

- ・ワックスがけをされる場合は、ワックスに記載の使用上の注意をよく読んでからご使用ください。
- また、事前に試し塗り等で仕上げの確認を行うことをお勧めします。

ポイント

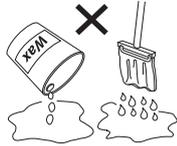


- ・ワックスは木質床用水性樹脂ワックスを使用してください。
- ・ロウタイプは使用しないでください。

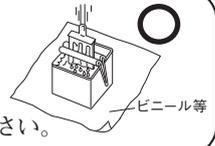
メーカー名	商品名	ピュアハード塗装品用		マット塗装品用		ペット用防滑塗装品用	
		業務用	家庭用	業務用	家庭用	業務用	家庭用
(株)リンレイ	ハイテックフローリングコート	○	○	—	—	ワックスは塗布できません。	
	ハイテックフローリングコートつや消し20 (JFPAマーク有り品)	—	—	○	—		
	ハイテックフローリングコートつや消し40	○	—	○	—		
	ノンブライト	—	○	—	○		
(株)リスダンケミカル	ナチュラルック	—	—	—	○		

ワックス使用時の注意事項

- ・ワックスは絶対に床の上に流さないでください。
床面にワックスを流したり、しずくが落ちるような布で塗ったりすると、部分的にフロア表面の美観を損ねることがあります。



- ・ワックスはきれいな布に含ませ、しずくが落ちない程度に絞って床面にムラなく塗りひろげてください。
- ・容器の下にはビニール等を敷いてください。



- ・室内の温度が5℃以下の時や雨の日で湿度が極端に高い時はワックスは使用しないでください。
床の表面が白っぽくなる原因となります。



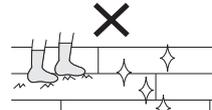
- ・ワックスがけの際は、換気を行ってください。
湿気がこもり、ムラ等の原因になります。



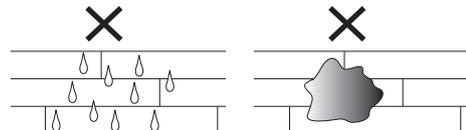
- ・ワックスがけの前後で化学雑巾は使用しないでください。
床の表面が白っぽくなる原因となります。



- ・ワックスを厚く塗りすぎると、歩行時にワックスの被膜の割れる音が発生することがあります。



- ・ワックスをかけるときは、床面が十分に乾燥している（水気がない）ことを確認してください。
- ・床用洗剤を使用する時は、洗剤分が床に残らないように拭き取ってからワックスを塗ってください。



WOODTEC

朝日ウッドテック株式会社

本社 大阪市中央区南本町4-5-10 〒541-0054
 東京支店 東京都江東区新木場1-4-6 〒136-0082

●商品については下記営業までお問い合わせください。

東京 東京千葉 東関東チーム 03-5569-5512
 支店 神奈川チーム 03-5569-7701
 東部特需ユニット 03-5569-5513
 東部集合ODMユニット 03-5569-5514
 パパックスベース推進部 03-5569-5514

大阪 大阪チーム 06-6245-9501
 本社 西部特需ユニット 06-6245-9502
 西部集合ODMユニット 06-6245-9503
 パパックスベース推進部 06-6245-9501
 アニティリビング営業部 072-222-6902

北海道(札幌) 011-207-1177
 東北(仙台) 022-287-0145
 北関東(上尾) 048-775-0471
 東京西(府中) 042-361-3634
 名古屋 052-238-2081

北陸(金沢) 076-292-1830
 中四国(岡山) 086-897-3791
 九州(福岡) 092-481-5228